

科目	子どもと健康	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	<p>幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果 (1) に対応する。</p>		
到達目標	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識・技能を身に付ける。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度（主体性やグループワークなど）、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	乳幼児期の健康課題：健康の定義と乳幼児を取り巻く生活環境、乳幼児期の健康の意義	予習：幼児期の健康課題について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
2.	乳幼児の身体の発達の特徴：乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達	予習：幼児期の身体の発達の特徴について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
3.	乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得と乳幼児期の基本的な生活リズムの形成とその意義	予習：幼児期の生活習慣について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
4.	子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理、リスクとハザードの違い	予習：子どもの安全管理について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
5.	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置、病気の予防	予習：幼児期の病気や応急処置等について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
6.	乳幼児期の運動発達の特徴、運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係	予習：幼児期の運動発達の特徴について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
7.	日常生活における幼児の動きの経験や配慮、社会の変化と生活の中の身体活動の在り方	予習：社会変化や生活活動について調べる（2時間） 復習：本時を振り返る（2時間）	
8.	遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	予習：遊びと運動について調べる（2時間） 復習：本科目を振り返る（2時間）	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『事例で学ぶ保育内容<領域>健康』（萌文書林）、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社）		
参考書	適宜、資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度（40%）確認小テスト・レポート課題（60%） レポート等は、フィードバックしたうえで返却するが、念のためコピーをとっておくこと		
特記すべき事項	なし		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科目	子どもと人間関係	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	「人間関係」の目標やねらい内容等を発達や生活および遊びなどと関連付けながら、それらの理論について理解する。人との関わる力の育ちが、人生を支える力になることを理解する。本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	領域「人間関係」の指導法の基盤となる、幼児と人との関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。		
学習成果の評価基準	領域「人間関係」の、幼児と人との関わる力の育ちに関する専門的事項が理解できているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上正答できる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	幼稚園・保育所での領域「人間関係」とは 保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
2.	自立心を育む援助	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
3.	遊びの発達と人間関係 3歳未満児、3歳以上児、共同性の育ち	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
4.	自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを整理する力を育む援助の在り方	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
5.	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助、ルールのある遊びと援助	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
6.	道徳性・規範意識の芽生えと保育、個と集団の育ちを考える	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
7.	保育場面での気になる子どもとのかかわり 多様な人、多様な子どもとの関わりのなかで豊かに生きる子どもへ	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
8.	地域社会における人間関係 専門性を持った保育者とは まとめ	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『アクティベート保育学08 保育内容「人間関係」』大豆生田啓友・岩田恵子・久保健太(編著)(2022) ミネルバ書房		
参考書	『イラストで読む!幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見(著編)(2017) 学陽書房		
学習成果の評価方法	試験(50%) その他(授業内レポート・受講態度)50%		
特記すべき事項	保育士(9年) 精神保健福祉士(1年)		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。E-mail: mivadi@kvushuotani.online		

科目	子どもと環境	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	子どもをとりまく環境について、子どもの園生活と環境、自然—動植物の飼育・栽培、社会、科学遊びなどを通して理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	幼児がかかわる環境について知り、そのかかわり方や意義について学習する。その中で、生き物の飼育や栽培の実際、地域社会の理解などについても映像教材や演習、一部実技学習を通して学習を進める。		
学習成果の評価基準	授業の課題に取り組み、提出されたプリントを用いて評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	現代の子どもと「環境」、子どもの園生活と「環境」	予習(2時間)：基礎実習での子どもの様子をまとめる 復習(2時間)：周囲の環境を調べ	
2.	季節と自然	予習(2時間)：季節と自然とのかかわりについてまとめる 復習(2時間)：自然を調べる	
3.	生き物の飼育 動物の飼育、昆虫などの関わり	予習(2時間)：生き物とのかかわりについてまとめる 復習(2時間)：生き物を調べる	
4.	植物の栽培 野菜の栽培、花の栽培	予習(2時間)：植物とのかかわりについてまとめる 復習(2時間)：植物を調べる	
5.	里山保育と里山デザイン	予習(2時間)：里山とのかかわりについてまとめる 復習(2時間)：里山を調べる	
6.	園生活と家庭生活、公共物・施設・地域、乗り物について	予習(2時間)：生活サイクルについてまとめる 復習(2時間)：生活を調べる	
7.	自分でつくって遊ぼう—科学遊び（1）風を造る、作った風をあげる	予習(2時間)：風の造り方を調べる 復習(2時間)：風をあげる	
8.	子どもと環境をめぐる展望、まとめ	予習(2時間)：これまでの授業を振り返る 復習(2時間)：自身の考えをまと	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』（無藤・汐見（著編）（2017）学陽書房）、授業中に適宜資料を配布する		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚生省、チャイルド社）		
学習成果の評価方法	受講態度 40%、授業内課題 60% 随時、課題への取り組みについてフィードバックする。		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）		

科目	子どもと言葉	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	『言葉』の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げる基礎的知識を身に付ける。		
学習成果の評価基準	自分の「言葉」に関する感覚を磨き、語彙を広げ、言葉遊びや絵本の読み語り、オノマトペを用いた表現が豊かに出来る。 「言葉」の意義と機能の理解度を測るために、授業内発表で評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	人間にとって「言葉」とはなにか？人間にとっての言葉の意義と機能を学ぶ	予習120分：「言葉」とはどんなものか考えておく 復習120分：授業を振り返る	
2.	「言葉による伝え合い」とは？コミュニケーション機能の理解 「言葉」の持つイメージと体験による言葉の獲得について学ぶ	予習120分：言葉遊びを3つ以上調べ、遊んでおく 復習120分：授業を振り返る	
3.	子どもの言葉の発達過程 誕生から書き言葉(文字)修得まで、言葉の機能について学ぶ	予習120分：発語する時の口の形と舌の位置を確認する 復習120分：授業を振り返る	
4.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは① 言葉に対する感覚を豊かにする赤ちゃん絵本の取り入れ方を学ぶ	予習120分：ブックスタートについて調べておく 復習120分：授業を振り返る	
5.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは② 言葉に対する感覚を豊かにする昔話絵本と童話絵本について学ぶ	予習120分：昔話絵本と童話絵本について調べておく 復習120分：授業を振り返る	
6.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは③ 言葉に対する感覚を豊かにする科学絵本と数や量と形の概念の関係について学ぶ	予習120分：科学絵本について調べておく 復習120分：授業を振り返る	
7.	言葉を育て、想像する楽しさを広げる絵本や物語、紙芝居を用いた保育について学ぶ	予習120分：ごっこ遊びの役割について調べておく 復習120分：授業を振り返る	
8.	絵本を用いた保育の導入について学ぶ	予習120分：模擬保育の計画・練習をしておく。 復習120分：授業を振り返る	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』(学陽書房) 事例で学ぶ保育内容 領域・言葉(萌文書林)		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、厚労省、チャイルド社) 授業中に適宜資料を配布する		
学習成果の評価方法	授業への参加(グループ活動、発表、模擬保育)50% 授業振り返りレポート20% 最終レポート 30%		
特記すべき事項	自分の言葉に対する感覚を磨くため、積極的な授業参加と発表を心がけてください。 卒業必修・幼稚園教諭2種免許必修		
質問・相談等の受付	授業の終わりに直接受け付けます。メールでの質問もどうぞ。		

科目	保育内容の理解と方法Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	橋本真理子・樋口光融・西村幸一郎・吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、見立てなどの体を使った遊びや表現、身近な自然と音や人の声、音楽に親しむ遊びや表現、身近な自然と色や形、感触やイメージに親しむ遊びや表現、自らが児童文化財に親しむ遊びと表現を豊かに展開するために必要な知識を習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	各領域について子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識を習得し協働して取り組むことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識を習得しているか、また協働して取り組むことができているかを、課題制作の過程及び成果物から評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	ガイダンス・授業のねらいと進め方について	予：シラバス・テキストに目を通す(30分)復：本時の内容を振り返る(30分)	
2.	子どもの音楽活動と和音① コードネームの基本について学び、コード表記の楽譜から音楽活動の展開を考える。	予：主要三和音で子どもの歌を弾いてくる(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
3.	子どもの音楽活動と和音② ピアノやシロフォンを用いて、コードネームをもとに即興的に演奏する方法を学ぶ。	予：コードネームを見て和音を弾けるよう練習(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
4.	子どもの音楽活動と和音③ ピアノ、シロフォン、ブームワッカー、シロフォンを用いた音楽活動の展開を学ぶ。	予：多くの伴奏パターンを練習する(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
5.	子どもの音楽活動と和音④ 和音の理解をもとに楽器を用いた合奏を展開する。相互鑑賞。	予：コード譜から合奏の計画を考える(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
6.	粘土に触れ練ったり形をつくったりして遊ぶことを通して、可塑性や感触、水を含む性質を体験的に学ぶ。	予：作業着・タオルの準備、粘土の性質を予習(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
7.	粘土の性質を利用して、加えたり削ったりするモノづくりの原点に気づき、作ろうとする制作物のイメージを固める。	予：作業着・タオルの準備、粘土練り予習(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
8.	粘土による作品のイメージをもとに、どのようにものづくりが行えるかについての方法について理解する。	予：作業着・タオルの準備、いくつかの完成形予習(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
9.	粘土の課題「土鈴」づくりを通じて、鑑賞し合い、相互に作品のよさを認め合うとともに、自己の作品を振り返る。	予：作業着・タオルの準備、作品の見方を考える(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
10.	提示した絵本を題材にして気に入った場面のイメージを膨らませ、動きによる即興表現をする。少人数によるグループ創作	予：絵本を読んでくる(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
11.	身体表現作品づくり①：動きによる場面ごとの即興表現をもとに、「はじめ—なか—おわり」のストーリーを構成する。	予：作品の構成を考える(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
12.	身体表現作品づくり②：動きによる場面ごとの即興表現をもとに、「はじめ—なか—おわり」のストーリーの構成をまとめ、動きを完成させる。	予：作品の修正を考える(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
13.	つくり上げた作品を、何度も繰り返し感じを込めて動く。 発表会及び鑑賞(相互評価)	予：発表に備えて思いきり動ける心身の状態を準備(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
14.	保育内容の方法と理解Ⅲにむけての見通しを持てるようにするために、過去の「遊びと表現」「幼教こども劇場」を参考にする。	予：「幼教こども劇場」の動画を見てくる(30分)復：本時の学びを振り返る(30分)	
15.	保育内容の方法と理解Ⅲにむけての見通しを持ち、遊びと表現を豊かにする上で領域が効果的に重なるイメージをもつ。	予：授業全体で学んだことをまとめる(30分)復：授業全体の学びを振り返る(30分)	
教科書	『子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」』(中央法規)		
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』		
学習成果の評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (30%) 授業内発表 (30%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談の受付	おたにオンライン、または各研究室で受け付けます		

科目	音楽表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・山田俊之	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育者として必要な音楽の基礎的能力を高める。音楽の基礎知識、理論について学びながら、その理解に基づいた音楽表現活動を演習として行う。「ボディパーカッション教育」では、自分の身体を使って、簡単な手拍子を中心に他者と一緒にリズムアンサンブルを作り上げる。		
到達目標	音色、リズム、拍子、音程、ハーモニー、フレーズなどの音楽の要素について理解し、単純なあるいは平易な音楽においてそれらを生かした身体技法としての表現が出来ることが目標である。同時に、楽譜を読み書きする力も身につける。		
学習成果の評価基準	音色、リズム、拍子、音程、ハーモニー、フレーズなどの音楽の要素について理解しており、単純なあるいは平易な音楽においてそれらを生かした身体技法としての表現が出来る。同時に、楽譜を読み書きする力が身につけている。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 音楽の要素、拍と拍子 読譜の基本	予：シラバス及びテキストに目を通す(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
2.	読譜のトレーニング① 主要三和音について	予：テキスト①Challenge1～5(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
3.	読譜のトレーニング② 主要三和音で演奏 リズム(拍の分割)	予：拍の分割リズム練習(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
4.	読譜のトレーニング③ 長音階とペンタトニックスケール	予：階名唱の練習 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
5.	読譜のトレーニング④ わらべうたの音階と伴奏	予：わらべうたの旋律演奏練習(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
6.	リズム遊び(ボディパーカッション)① ハンカチリズム、手回しリズム、お手上げリズム、ほか	予：テキスト②に目を通す 復：授業内容を振り返る(30分)	
7.	リズム遊び(ボディパーカッション)② 「手拍子の花束」、ほか	予：テキスト②の曲を練習(30分) 復：授業内容を振り返る(30分)	
8.	読譜のトレーニング⑤ 旋律と和音の関係①～和声音と非和声音～	予：テキスト①P.53～62に目を通す 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
9.	読譜のトレーニング⑥ 旋律と和音の関係②～様々な非和声音～	予：テキスト①Challenge16～18(30分) 復：授業資料を振り返る(30分)	
10.	読譜のトレーニング⑦ 旋律に伴奏を付ける～主要三和音と属七和音を使って～	予：八長調の主要三和音の演奏練習(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
11.	読譜のトレーニング⑧ 様々な伴奏の形と旋律の変奏	予：テキスト①P.99～107に目を通す(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
12.	フィールドワーク ～身の回りの環境と音～	予：日常の「音」を出来るだけ多く書き出す(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
13.	読譜のトレーニング⑨ 記譜～変奏した旋律と伴奏を楽譜に書く～	予：変奏と伴奏付け(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
14.	読譜のトレーニング⑩ 循環コードと合奏	予：コード進行について調べる(30分) 復：授業資料を見て振り返る(30分)	
15.	グループワーク：条件に応じた合奏を創る	予：主要三和音で演奏できる曲を探す(30分) 復：まとめレポートの作成(30分)	
教科書	①「子どものための音楽表現技術」(萌文書林) ②「保育園・幼稚園 de ボディパーカッション&リズム遊び」(明治図書)		
参考書			
学習成果の評価方法	授業内の演習に対する意欲態度30%、演習(授業内でのワーク、発表)の評価70%		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付	授業時及び研究室在室時に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	音楽実技Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・井浦芳恵・片岡和代・楠美香・中島美保・藤田桃子・吉賀貴子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために、保育の現場で音楽は欠かすことができない。この授業では主に「こどものうた」及び「こどものうたのピアノ伴奏」の学習を通して実践的に演奏技術、音楽表現力を習得する。個人の音楽経験などによる差異に対応し、小グループあるいは個別的に指導を行う。		
到達目標	子どもの想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者に必要な、自身の感性と音楽表現の技術を高める。また、音楽の基礎となるリズム・拍子感や音程感覚を体得し、音価・音高など、楽譜の読み方・書き方に必要な知識も身につける。		
学習成果の評価基準	①意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。②課題曲の習得：8曲以上を保育の場での使用に耐えうるレベルで演奏できる。③歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。④歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。⑤ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。⑥ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	使用テキストに目を通しておく。各授業において予習30分以上、復習30分以上を必要とする。	
2.	演習①【以下演習①～⑬の共通内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ） グループまたは個人指導の形態で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
3.	演習②【以下演習①～⑬の共通内容】 歌唱とピアノはそれぞれ別個に学習する。（弾き歌いは原則なし）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
4.	演習③【以下演習①～⑬の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。（呼吸、体の使い方とそのコントロール）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
5.	演習④【以下演習①～⑬の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」掲載曲の歌唱法を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
6.	演習⑤【以下演習①～⑬の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
7.	演習⑥【以下演習①～⑬の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。（姿勢、指の基礎運動、体の使い方等）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
8.	演習⑦【以下演習①～⑬の共通内容】 ピアノ：平易な和音や旋律の曲を用いて、基本的な演奏感覚を身につける。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
9.	演習⑧【以下演習①～⑬の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」掲載曲の伴奏法について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
10.	演習⑨【以下演習①～⑬の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
11.	演習⑩【以下演習①～⑬の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
12.	演習⑪【演習①～⑬は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
13.	演習⑫【演習①～⑬は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
14.	演習⑬【演習①～⑬は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
15.	まとめ（演奏相互発表）	より音楽的な演奏ができるよう練習を重ねる。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
教科書	「子どもたちの歌」		
参考書	子どものための音楽表現技術（萌文書林）		
学習成果の評価方法	①意欲・態度20%②課題曲の習得状況20%（終了課題曲数に応じ加点有）③歌唱技術15%④歌唱表現15%⑤ピアノ奏法15%⑥ピアノ表現15% ※③④⑤⑥について、授業内での状況を加味した評価各10%、まとめ演奏発表時の演奏評価各5%とする。		
特記すべき事項	毎回の授業には、指示された内容の練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・授業内容は異なる。履修登録は、全員一括で行うが、特別な事情で履修を希望しない者は、授業担当者（樋口）まで申し出る事。		
履修・履修等の受付	授業時（全体指導時・個別指導時）に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	音楽実技Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・井浦芳恵・片岡和代・楠美香・中島美保・藤田桃子・吉賀貴子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの経験や想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。個人の音楽経験などによる差異に対応し、グループまたは個別的な指導を行う。		
到達目標	前期「音楽実技Ⅰ」を基礎に、主に「こどものうた」及び「こどものうたのピアノ伴奏」の学習を通して実践的に演奏技術、音楽表現力を習得する。また、子どもの音楽活動を展開するために保育者に必要な、音楽的知識も身につける。		
学習成果の 評価基準	①意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。②課題曲の習得状況：8曲以上を保育の場での使用に耐えうるレベルで演奏できる。③歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。④歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。⑤ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。⑥ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	演習①【以下演習①～⑭の共通内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ） グループまたは個人指導の形態で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
2.	演習②【以下演習①～⑭の共通内容】 歌唱とピアノはグループ内でのアンサンブルの形で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
3.	演習③【以下演習①～⑭の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。（呼吸、体の使い方とそのコントロール）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
4.	演習④【以下演習①～⑭の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」掲載曲の歌唱法を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
5.	演習⑤【以下演習①～⑭の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
6.	演習⑥【以下演習①～⑭の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。（姿勢、指の基礎運動、体の使い方等）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
7.	演習⑦【以下演習①～⑭の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」掲載曲の伴奏法について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
8.	演習⑧【以下演習①～⑭の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
9.	演習⑨【以下演習①～⑭の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
10.	演習⑩【演習①～⑭は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
11.	演習⑪【演習①～⑭は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
12.	演習⑫【演習①～⑭は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
13.	演習⑬【演習①～⑭は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
14.	演習⑭【演習①～⑭は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。（60分以上）	
15.	まとめ（演奏相互発表）	より音楽的に演奏できるよう練習を重ねる。歌は暗譜し、弾き歌いも練習の事。（60分以上）	
教科書	「子どもたちの歌」		
参考書			
学習成果の 評価方法	①意欲、態度20%②課題曲の習得状況20%（終了課題曲数に応じ加点有）③歌唱技術15%④歌唱表現15%⑤ピアノ奏法15%⑥ピアノ表現15% ※③④⑤⑥について、授業内での状況を加味した評価各10%、まとめ演奏発表時のみの評価各5%とする。		
特記すべき 事項	保育者を志す者は履修を強く薦める。毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・教室は異なる。履修登録は、全員一括で行う為、履修を希望しない者は授業担当者（樋口）へ申し出る事。		
質問・相談等 の受付	授業時（全体指導時・個別指導時）に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	造形表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	西村幸一郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳幼児の造形活動のよりよき援助者となるため、自己表出・表現を多様な価値・発想・技法のもとに重ねることで、より深く「美術する」ことを学び、創造的に生きることを学ぶ。又、造形活動の上での基礎的な素材・用具を体験し、その管理と扱いについての基本的な知識技能を学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果（5）に対応する。		
到達目標	保育者として自己表出・表現を多様な発想のもとに「美術する」ことを学び、基礎的な表現技術を身に付けることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している多様な発想のもとにした制作が行えているか、また、基礎的な表現技術を身に付けているかを、課題制作の過程及び成果物から評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション：「美術する」こと…絵画表現活動・造形活動の基礎 ※スケッチブック、鉛筆2B以上を準備	シラバスを確認する（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
2.	「色彩」①：効果を楽しむ～皆違った色を見ている…色の3要素と普遍性	3原色について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
3.	「色彩」②：効果を作る①自分の感覚をたよりに…残像効果と心理補色	色の3つの要素について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
4.	「色彩」③：効果を作る②今度はどうする？…色彩の相関性の理解と制作	色の錯覚について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
5.	「色彩」④：「私の色」を知る（自分発見）…透明性の錯覚の理解と制作	補色の関係について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
6.	「色彩」⑤：「私の色」を作る（自分発見）…混色・色彩のコントロール	美しいと思う雑誌のページを数点選んで持参（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
7.	描画材・素材からの発想①：鉛筆…探究活動の理解と実践及び素材の可能性	混色と水分量について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
8.	描画材・素材からの発想②：パス類…材料探究と美的探究の理解と制作 ※鉛筆2B以上を準備	クレパスの組成と技法について調べ、動画で予習する（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
9.	描画材・素材からの発想③：水彩…素材の表現の可能性の探索	水彩の組成とその利用について調べ、動画で予習する（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
10.	対象からの発想：鉛筆を使って「自然物」を描く…認識的態度の理解 ※2B～4Bの鉛筆を準備	既習の技法を振り返る（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
11.	対象からの発想：和紙にはしペンを使って「自然物」を描く…制作 ※はしペンを準備	はしペンの使い方を調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
12.	イメージからの発想：色のイメージや歪曲を美術史に見る	錯覚を利用した作品について調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
13.	イメージからの発想：歪曲方法の理解と明暗方法について知る	作成方法について予習しておく（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
14.	日常にあるものからの審美的視点と創造的視点の表現①	日常の素材を利用した造形物について構想する（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
15.	日常にあるものからの審美的視点と創造的視点の表現②	日常の素材を利用した造形活動を調べる（30分） 学習内容を振り返る（30分）	
教科書	適宜資料を配布します。		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（20%） 授業内課題（80%）		
特記すべき事項	スケッチブック、鉛筆2B以上、はしペンを持参する授業回があるため、準備しておくこと。		
質問・相談の受付			

科目	身体表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	橋本真理子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>幼児の感性や創造性を豊かにする身体表現活動について理解し、その指導のための様々な表現遊びや方法などについて仲間と共に楽しく実践的に学ぶ 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)(5)に対応する。</p>		
到達目標	<p>幼児期の身体表現活動を支援するための方法を理解し、自分のからだや動きで様々な表現ができるようになる</p>		
学習成果の評価基準	<p>個やグループの活動や発表の中で、自己評価・相互評価・観察等を通して達成度を評価する</p>		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	【ガイダンス】①保育者としての「動けるからだの重要性」の理解と実践 ②領域「表現」の目標とねらい、「身体表現」の特徴や意義、授業の概要の理解	予習：教科書を読んでもくる(30分) 復習：本時の内容を振り返る(30分)	
2.	①動けるからだづくり：歩く一走る一止まる ②いろいろなテーマによる表現：模倣(ミラーリングⅠ)「こんなことできるかな」	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
3.	①歩く一走る一止まる ②模倣(ミラーリングⅡ)「新聞紙」	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
4.	①ストップモーションいろいろ、伸びる一縮む ②ポーズABC	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
5.	①ストップモーションいろいろ、仲間を感じる ②リーダーに続け	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
6.	①小走り、スロー、素早く、集まる一離れる ②変身(動物・忍者)	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
7.	①小走り、スロー、素早く、からだ全体を使って ②「猛獣狩りに行こうよ」アレンジ(体験型発表)	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
8.	①小走り(曲線)スロー、素早く、まわる ②「見る」「聞く」(からだ全部をつかって)	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
9.	①小走り(曲線)スロー、素早く、まわる、とぶ(飛ぶ・跳ぶ) ②「同調」「対立」「群のうごき」	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
10.	①ステップいろいろ、動きの三連符 ②「作品づくりに向けて」「強調」「やさしさ」	予習：動けるからだを準備する(30分) 復習：本時の学びを振り返る(30分)	
11.	グループ創作(小作品づくり1)：題材(絵本等)の提示、気に入った場面のイメージ創作や即興表現	予習：作品のイメージを膨ませる(30分) 復習：本時の内容を振り返る(30分)	
12.	グループ創作(小作品づくり2)：動きによる即興表現をもとに、ひと流れの動きのフレーズづくり	予習：作品のフレーズを考える(30分) 復習：本時の内容を振り返る(30分)	
13.	グループ創作(小作品づくり3)：ひと流れの動きのフレーズをもとにストーリーを構成してまとめる	予習：ストーリーを考えてくる(30分) 復習：本時の内容を振り返る(30分)	
14.	グループ創作(小作品づくり4)：作品で表現したいことが伝わるようにグループごとに取り組む	予習：作品のまとめを考える(30分) 復習：本時の内容を振り返る(30分)	
15.	発表、リフレクション：感じを込めた動きと相互評価の重要性の理解	予習：発表への意識を高める(30分) 復習：全体の学びの振り返り(30分)	
教科書	『子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」』(中央法規)		
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』(学陽書房)		
学習成果の評価方法	受講態度(40%) 授業内課題(20%) 授業内発表(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受け付け	おたにオンライン、研究室どちらでも受け付けます		

科目	保育者論	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本講では、①保育者とはどのような位置づけにあるのか、②保育者とはどのような職業なのか、③保育者に求められる専門性とは何か、の3点を柱に講義を行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	講義を通し、自身がどのような保育者になりたいか、そのためにはどのような学びが必要かを考え、実践に移していく力の基礎を身につけることを目標とする。		
学習成果の評価基準	自身がどのような保育者になりたいか明確にイメージできるようになり、そのためにはどのような学びが必要かを考え、実践に移していく力の基礎が身につけているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上正答できる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育に求められる力、保育者になることとは	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
2.	保育者の仕事と役割 幼稚園、保育園、認定こども園での、保育者の業務について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
3.	保育者の仕事と役割 保育者の業務について、一日・週・月・年間について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
4.	保育者になるための学び	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
5.	保育者に求められる資質とは	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
6.	保育者の役割(子ども) 特別な支援を必要とする子どもについて	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
7.	保育者の役割(保護者・家庭) 保護者との関係作りと支援について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
8.	保育者の役割(クラス運営) (1) 保育計画をどのように立てるか	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
9.	保育者の役割(クラス運営) (2) 集団の中での子ども達の成長について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
10.	保育者の役割(地域) 地域における保育者の役割について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
11.	子どもの育ちの危機と子育て支援	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
12.	保育者同士の連携、協働 職場関係、職員間の連携について	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
13.	保育者の生涯発達 学び続ける保育者	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
14.	保育者とは 自分が理想とする保育者像を考える	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
15.	まとめ 専門性を持った保育者とは	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
教科書	『コンパス保育者論』上野・米谷(2021)建帛社『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかりBOOK』無藤・汐見(2017)学陽書房『手遊び百科』植田(2006)ひかりのくに		
参考書	『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』文部科学省(著)(2018)		
学習成果の評価方法	授業内課題(20%) 定期試験(80%) 授業内発表(10%)		
特記すべき事項	保育士(9年) 精神保健福祉士(1年) 各授業において予習2時間・復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: mivadi@kvvshuotani.online		

科 目	教育原理	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	山田俊之	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	授業のテーマに沿ってテキストや参考資料を使用して講義形式を中心に授業を行う。演習やペア・グループ討議等のアクティブラーニングを取り入れた授業も含む。毎回の授業に対する学生の理解と意欲・関心等を確認するために小レポートを提出してもらう。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	教育の基本的概念や教育の理念について学ぶとともに、教育の歴史や指導に関する基礎的知識を身につけ、過去から現代に至るまでの教育・社会・学校との関わりについて理解できる。		
学習成果の評価基準	教育の基本的概念や教育の理念について学ぶとともに、教育の歴史や指導に関する基礎的知識を身につけ、過去から現代に至るまでの教育・社会・学校との関わりについて理解できていることを、発表、レポート、小論文、定期試験で評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	教育の意義と目的	シラバスに目を通しておく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
2.	教育を成り立たせる要素と相互関係	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
3.	教育の歴史(家族と社会)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
4.	近代教育制度について	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
5.	現代社会における教育的課題	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
6.	教育の思想(家庭や子ども)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
7.	教育の思想(学校や学習)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
8.	教育の思想(日本や諸外国の教育思想家)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
9.	近年の教育の課題	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
10.	教育事情や教育改革の動向	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
11.	教育制度の意義・原理・仕組み	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
12.	教育制度をめぐる諸課題	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
13.	教育経営(学内外との連携)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
14.	現代の教育課題(地域との連携)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
15.	現代の教育課題(学校安全・危機管理)	配布プリントを読んでおくこと(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
教科書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)、参考文献については授業内で適宜指示する。授業に関してはレジュメプリントを配布する。		
参考書	参考文献については授業内で適宜指示する。授業に関してはレジュメプリントを配布する。		
学習成果の評価方法	定期試験(30%) 授業への取り組みと小レポート(40%) 出席状況(30%)		
特記すべき事項	ディスカッションなどの、グループワークを行い評価に加味する。		
質問・相談等の受付	随時メールで受け付ける。面談も可能。		

科目	保育の心理学	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	岡田健一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業は、乳幼児期の子どもの発達を捉える理論を学び、発達を捉える視点を養う授業である。合わせて、子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を学び、主体的な学びを支える人との相互的な関わりや、環境の意義についても理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1. 子どもの心身の発達について、基礎的な知識を習得し、発達を捉える視点が育っている 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を理解している 3. 子どもの学びの家庭や特性について基礎的な知識を習得し、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を理解している		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している3点の到達度を測るために、授業後に復習課題を課し、合わせて授業最終回での学習成果確認レポート作成する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 子どもの発達を理解することの意義	予:教科書第1章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
2.	子どもの発達と環境	予:教科書第1章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
3.	発達理論と子ども観・保育観	予:教科書第1章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
4.	子どもの発達過程:乳児期の発達	予:教科書第2章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
5.	子どもの発達過程:社会情動的発達	予:教科書第2章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
6.	子どもの発達過程:身体的機能の発達	予:教科書第3章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
7.	子どもの発達過程:運動機能の発達	予:教科書第3章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
8.	子どもの発達過程:認知の発達	予:教科書第4章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
9.	子どもの発達過程:言語の発達	予:教科書第4章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
10.	基本的生活習慣の獲得と発達	予:教科書第5章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
11.	子どもの学びと保育:乳幼児期の学びに関わる理論	予:教科書第6章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
12.	子どもの学びと保育:乳幼児期の学びの過程と特性	予:教科書第6章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
13.	子どもの学びと保育:乳幼児期の学びを支える保育	予:教科書第6章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
14.	児童期・青年期の発達	予:教科書第7章を読む(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
15.	学習成果確認レポート作成	予:学習成果確認レポートの準備を行う(4時間)	
教科書	井戸ゆかり(編著)(2019):保育の心理学、萌文書林。		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	授業後の復習課題(60%)、学習成果確認レポート(40%)		
特記すべき事項			
質問・相談の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科目	教育・保育課程論	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	山田俊之・庄籠道子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	教育・保育内容の充実と質の向上に資する計画及び評価について理解し、年間指導計画と指導案の作成についてその意義と方法について学ぶ。また、子どもの理解に基づく教育・保育の過程について、その全体構造を捉え、教育・保育カリキュラムの編成方法について実践的な学びを行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解できる。 2、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解できる。 3、領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解できる。		
学習成果の評価基準	1、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解度を小論文等で見える。 2、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法をレポートで判断する。 3、領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を定期テスト等で判断する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 教育・保育課程とは	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
2.	教育課程及びカリキュラムの基礎理論(基本原則と方法)	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
3.	保育における計画と評価の意義の理解	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
4.	子どもの理解に基づく保育の過程の循環による保育の質の向上の重要性の理解	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
5.	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の内容及び社会的背景	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
6.	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針における保育の目標と計画の考え方	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
7.	全体的な計画と指導計画の基本的考え方	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
8.	指導計画(長期的・短期的)の作成	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
9.	指導計画作成上の留意点	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
10.	指導計画に基づく保育の柔軟な展開	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
11.	保育の記録及び省察によるカリキュラム計画の理解	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
12.	保育者及び保育所・幼稚園の自己評価の基礎的考え方について	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
13.	保育の質の向上に向けた改善の取り組み(カリキュラム評価)	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
14.	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児園指導要録と保育所児童保育要録	テキスト、配布資料を読んでおく(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
15.	記述式試験	試験に向けテキストを読み込む(予習120分) 授業を振り返る(復習120分)	
教科書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)、それぞれの解説書		
参考書	授業のテーマ毎に授業資料を配布する。		
学習成果の評価方法	定期試験(60%) 授業への取り組みと小レポート(40%)		
特記すべき事項	ディスカッションなどの、グループワークを行い評価に加味する。		
質問・相談等の受付	随時メールで受け付ける。面談も可能。		

科目	保育内容総論	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、遊びを通じた総合的な支援のあり方、幼稚園教育要領等における領域の関連性、乳幼児の発達や興味・関心に基づいた保育の構想等について学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果(8)に対応する。		
到達目標	保育の基本的な考え方についての理解や指導計画の考え方についての理解、乳幼児の発達のな特徴を踏まえた保育実践の方法を構想することができる。また、他者と協働する力を持ち、その力を遊びを通して地域社会で活かすことができる(協働性)。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度(主体性やグループワークなど)、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	幼稚園・保育所の制度と生活	予習:要領・指針を読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
2.	遊びを通して何を体験しているか(1)身近な素材で遊ぶ	予習:遊びをイメージする(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
3.	遊びを通して何を体験しているか(2)遊びを分析する	予習:遊びの意義を考える(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
4.	幼稚園・保育所の一週	予習:園生活を思い出す(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
5.	遊びや生活を通して学ぶ	予習:園生活を調べる(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
6.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
7.	5領域と保育内容	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
8.	発達段階に応じた保育内容(1)グループ討議	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
9.	発達段階に応じた保育内容(2)発表	予習:考えをまとめる(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
10.	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容(事例から考える)	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
11.	指導計画(長期および短期指導計画)	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
12.	保育内容を深める教材と指導案の作成	予習:テキストを読む(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
13.	模擬保育の実施と評価(1)グループ発表	予習:発表の準備をする(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
14.	模擬保育の実施と評価(2)クラス発表	予習:発表の準備をする(30分) 復習:本時を振り返る(30分)	
15.	自主性・主体性を育む行事の計画と指導	予習:これまでの内容を振り返る(30分) 復習:本科目を振り返る(30分)	
教科書	遊びと生活をひらく保育内容総論(2022)太田光洋、ミネルヴァ書房 幼保連携型認定こども園教育・保育要領等		
参考書	適宜、資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度(40%)、授業内課題および提出物(30%)、レポート課題(30%) レポート等は、フィードバックしたうえで返却するが、念のためコピーをとっておくこと		
特記すべき事項	実際に屋内外にて身体を動かす場面があるため、体調管理には留意する		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科 目	臨床心理学（特講）	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	臨床心理学における心理療法・カウンセリングの基本を理解し、愛着の問題や児童虐待などの心的外傷に関する支援方法を学ぶ。 本授業は、幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。		
到達目標	愛着の問題や児童虐待などの心的外傷のある子どもに見られる特徴を理解し、早期に気づくことができるようになる。また、子どもへの心理的支援および保護者への対応について理解する。自分史を振り返り、保育者としての課題を見つけることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心的外傷のある子どもへの理解と支援に関する学習の達成度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。また、自分史の作成も評価の対象とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	こころの仕組みと保育	予習：シラバスを確認しておく(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
2.	心理療法の基本的な考え方①精神力動論的立場	予習：エディプスコンプレックスを調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
3.	心理療法の基本的な考え方②認知行動論的立場	予習：学習理論について復習しておく(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
4.	心理療法の基本的な考え方③人間成長論的立場	予習：マズローの欲求段階説を調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
5.	保育心理士におけるカウンセリング	予習：相談しやすい人の特徴について考える(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
6.	カウンセラーの基本的な態度	予習：配布資料を読む(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
7.	カウンセリングの様々な技法	予習：配布資料を読む(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
8.	愛着理論①アタッチメントとストレンジシチュエーション	予習：ストレンジシチュエーションを調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
9.	愛着理論②愛着障害	予習：愛着理論について調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
10.	愛着理論③愛着障害に対する対応と支援	予習：配布資料を読む(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
11.	トラウマ理論①単回性トラウマとファーストエイド	予習：トラウマについて調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
12.	トラウマ理論②慢性反復性トラウマ	予習：児童虐待の現状について調べる(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
13.	児童虐待①チャイルドマルトリートメント	予習：配布資料を読む(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
14.	児童虐待②事例検討	予習：配布資料を読む(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
15.	児童虐待③事例検討ふりかえり	予習：これまでの内容を振り返る(120分) 復習：本時を振り返る(120分)	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(10%) 授業内課題(50%) 【 自分史作成レポート 】(40%)		
特記すべき事項	臨床心理士として12年の実務経験		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受けつける		

科目	教育実習指導Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・宮地あゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「教育実習Ⅰ」と一体的に行うものであり、教育実習の事前指導、事後指導として実施する。教育実習の意義を理解するとともに、事前指導では、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果や課題等を省察するとともに、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき技能や知識等について理解する。本授業は幼児教育学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。また、教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、幼稚園教諭免許取得までにさらに習得する事が必要な知識や技能等を理解する。		
学習成果の評価基準	1. 実習の意義や重要性について理解できた。 2. 教育実習に臨む意欲を高める事ができた。 3. 教育実習に必要な準備を滞りなく行う事ができた。 4. 教育実習を通して得られた知識や経験について記録にまとめ振り返ることができた。 5. 今後学びを深めたい事について明確にする事ができた。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス、教育実習の意義	シラバス並びに幼稚園教育要領解説に目を通す(30分)授業資料の振返り(30分)	
2.	実習に必要な準備と手続きについて、遵守すべき義務	配布プリントに目を通しておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
3.	実習園の特色等について	実習園について、Web・求人情報等で情報収集を行う(30分)授業資料の振返り(30分)	
4.	実習生の一日	実習手続きに必要な書類の準備と提出(30分)授業資料の振返り(30分)	
5.	事前打ち合わせについて	事前打ち合わせで得るべき情報についてリストアップする(30分)授業資料の振返り(30分)	
6.	記録の取り方①	前期「実習基礎演習」の資料と記録を見て振り返っておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
7.	記録の取り方②	日誌練習記入の清書を行う(30分)授業資料の振返り(30分)	
8.	実習の自己目標確認	実習で学びたいことを明確にしておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
9.	実習期間中の帰校日：実習前半の振り返りと後半に向けた目標再設定を行う	実習記録を整理しておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
10.	実習期間中の帰校日：実習前半を終えての学びや課題の共有を行う	実習前半を振り返り、学びや課題を明確にしておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
11.	実習の振り返りを行い、自己の学びや課題を明確にする。	実習記録を整理しておく(30分)授業資料の振返り(30分)	
12.	実習での学びと課題の共有、お礼状の書き方	お礼状を書き圈に持参する(30分)授業資料の振返り(30分)	
13.	教育実習Ⅱに向けての学びについて	これから学びたいことを明確にする(30分)授業資料の振返り(30分)	
14.	実習報告書の作成	報告書の仕上げ(30分)授業資料の振返り(30分)	
15.	報告書に基づく発表とまとめ	実習の振り返り(30分)実習指導全体の振り返り(30分)	
教科書	幼稚園教育要領解説、プリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	授業に臨む姿勢・態度30%、授業内課題(実習書類提出等を含む)70%		
特記すべき事項	授業時間外学習は、予習・復習の順に記載している(文字数制限の為見出し省略)		
質問・相談の受付	実習開始前・終了後については、実習指導時並びに研究室在室時に随時受け付ける。Google Classroomにおいても受け付ける。実習期間中は、開始前に知らせる実習担当者携帯電話またはメール等で受け付ける。		

科目	教育実習Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・宮地あゆみ	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	幼稚園または認定こども園（幼稚園部分）において2週間の実習を行う。実習園は、実習時期を考慮し、大学が事前に選定し内諾を取った上で学生の居住地や通学手段等を考慮して割り当てる。実習を通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来保育者になる上での能力や資質を高め課題を自覚する。幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。 本授業は幼児教育学科の学習成果（6）に対応する。		
到達目標	①観察・参加を通して、子ども理解を深めるとともに、幼児の園での生活の実態や課題を把握する。 ②幼稚園教諭の在り方や姿勢について具体的に学び、保育の補助的な役割を担うことができる。 ③学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施する為の教諭の職務や組織体制について理解する。		
学習成果の評価基準	1. 幼稚園における教育の目的に関して理解を深めた 2. 幼稚園における教育の対象に関して理解を深めた 3. 実習生としての自覚に立って意欲的に取り組んだ 4. 職員や他の実習生と協力的であった 5. 勤務状況が良好である 6. 保育者としての愛情や人間性等の重要性が理解でき、実践に活かそうと心掛けた		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
<p>事前指導及び事後指導（教育実習指導）と一体的に実施する。</p> <p>実習開始前に園に出向き、事前打ち合わせを行う。ここでは、園の実習指導担当者等に、実習園の概要や実習配属クラス等を尋ね、実習園について理解を深めるとともに、実習に向けた準備の為に必要な情報を得る。</p> <p>実習期間中は、主に以下の内容について実践し学びを深める。</p> <p>（1）観察及び参加並びに実習園の理解に関する事項</p> <p>①幼児とのかかわりを通して、その実態や課題を把握する。 ②実習園の教諭が実施する保育を視点を持って観察し、事実を即して記録する。 ③実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施する為の組織体制について理解する。 ④教諭（学級担任等）の補助的な役割を担う。</p> <p>（2）保育内容の指導及び学級経営に関する事項</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導について、観察・参加を通して学ぶ。 ②保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境校正など）を実地に則して身につける。 ③学級担任等の役割と職務内容を实地に則して理解する。 ④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる。</p>		<p>①実習に向けて、自身が実習で学びたいこと、積極的に取り組みたいことを明確にして臨むこと。</p> <p>②「教育実習指導」における内容をよく振り返り、事前提出書類、準備物、身だしなみ等の準備をぬかりなく行う事。</p> <p>③実習期間中は、毎日1日の振り返りを行い、日誌の記入、記録の整理を行う事。</p> <p>④実習期間中は、実習担当教諭や園の先生方の指導・アドバイスを謙虚に受け止め、振り返りに基づく具体的目標の再設定を行うこと。</p> <p>⑤実習終了後は、実習全体の振り返りを行い、記録をまとめるとともに、課題等を明確にすること。</p> <p>（予習・復習に30時間必要）</p>	
教科書	幼稚園教育要領解説、プリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	実習園における評価（①知識・技能 ②実習態度 ③総合評価）80% 事前事後の評価（日誌等の提出物評価を含む）20%		
特記すべき事項	実習園によっては、別途給食費等の負担がある場合もあります。		
質問・相談等の受付	実習開始前・終了後については、実習指導時並びに研究室在室時に随時受け付ける。Google Classroomにおいても受け付ける。 実習期間中は、開始前に知らせる実習担当者携帯電話またはメール等で受け付ける。		

科目	乳児保育Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設における乳児保育の意義・目的・役割などを学ぶ。出生してから着しく成長発達していく乳児の生活や遊びの実態を知り、3歳未満児の保育について理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び、保護者や地域の関係機関との連携について理解する。		
学習成果の 評価基準	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷や役割を理解し、3歳未満児の生活や遊びの実態、保育内容や等理解する。 これらの理解度を測るために、授業内発表、授業ごとの小レポートとテストにて評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 赤ちゃんのかかわりについて学ぶ	予習120分:「赤ちゃんのかかわり」を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
2.	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷について学ぶ	予習120分:教科書 第1回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
3.	乳児保育の役割と機能について学ぶ	予習120分:教科書 第2回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
4.	乳児保育における養護及び教育について学ぶ	予習120分:教科書 第3回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
5.	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について学ぶ	予習120分:教科書 第4回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
6.	保育所における乳児保育と保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育について学ぶ	予習120分:教科書 第5回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
7.	家庭的保育等における乳児保育 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学ぶ	予習120分:教科書 第6回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
8.	3歳未満児の生活と環境について学ぶ	予習120分:教科書 第7回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
9.	3歳未満児の遊びと環境について学ぶ	予習120分:教科書 第8回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
10.	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について学ぶ	予習120分:前回の授業から質問を考える 復習120分:授業を振り返る	
11.	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりについて学ぶ	予習120分:教科書 第9回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
12.	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について学ぶ	予習120分:教科書 第10回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
13.	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について学ぶ	予習120分:教科書 第11回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
14.	職員間の連携・連帯 保護者との連携・連帯 自治体や地域の関係機関との連携・協働について学ぶ	予習120分:教科書 第12回、 第13回を読んでおく 復習120分:授業を振り返る	
15.	本授業でのまとめ		
教科書	『講義で学ぶ、乳児保育』わかば社 『赤ちゃんのかかわり』子どもと保育研究所がらほ		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
学習成果の 評価方法	積極的な授業内での発表やグループワークを受講態度として評価する 40% 小レポートを実施し評価する 40% 課題作品の制作を行い評価する 20%		
特記すべき 事項	保育士資格取得必修		
質問・相談等 の受付	授業の終わりに声をかけてください。		

科目	子どもの保健	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子どもの健やかな発育を支え、子どもの命を守っていくための保育を、保育活動・保健活動の視点から学ぶ。疾病予防・健康増進について、養護の観点からも理解するために、乳幼児から幼児期の成長発達を学び、子どもの保健に関する知識を習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1. 子どもの発育・発達について学び、心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの心身の健康状態の把握の方法・疾病とその予防法及び対処法を理解する。 3. 子どもの健康増進・疾病予防における他職種間連携・協働の必要性を理解する。		
学習成果の評価基準	授業の中で、子どもの健康に関する課題レポートを提示したり、意見を求めたりする。 授業に臨む態度やレポート提出の内容などを基に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	予習：教科書 第1講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
2.	健康の概念と健康指標	予習：教科書 第2講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
3.	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策	予習：教科書 第3講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
4.	地域における保健活動と子ども虐待防止	予習：教科書 第4講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
5.	身体発育および運動機能の発達と保健	予習：教科書 第5講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
6.	生理機能の発達と保健	予習：教科書 第6講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
7.	健康状態の観察および心身の不調等の早期発見	予習：教科書 第7講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
8.	発育・発達の把握と健康診断、健康教育	予習：教科書 第8講・第15講(12分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
9.	保護者との情報共有	予習：教科書 第9講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
10.	主な疾病の特徴 新生児の病気、先天性の病気	予習：教科書 第10講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
11.	主な疾病の特徴 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気	予習：教科書 第11講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
12.	主な疾病の特徴 アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気	予習：教科書 第12講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
13.	主な疾病の特徴 脳の病気、その他の病気	予習：教科書 第13講(120分) 復習：配布資料(120分)	
14.	主な疾病の特徴 感染症	予習：教科書 第14講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
15.	子どもの疾病の予防と適切な対応	予習：教科書 第15講(120分) 復習：配布資料含め本時の振り返り(120分)	
教科書	子どもの保健 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	課題(20%)、受講態度(20%)、定期試験(60%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	子どもの食と栄養Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	彌永清子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	栄養に関する基礎的知識、子どもの発達段階に応じた栄養特性と食生活の重要性を学ぶ。さらに、食生活を含め子育て支援を行う専門職として、適切な食生活指導を行うことのできる応用力を養う。 本授業は、幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する 3 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する 5 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している1~2の達成度を測るために、受講態度(ノート作成、課題作成等)、授業内課題(課題提出率、課題内容)、定期試験での評価を行う。 なお、評価基準は次の通り。S(90~100点) A(80~89点) B(70~79点) C(60~69点) D(59点以下)		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義	食生活の意義についてテキストを読み込む(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
2.	子どもの心身の健康と食生活 ~子供の発育・発達と食生活~	子どもの発育・発達について調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
3.	子どもの食生活の現状と課題・世界の子どもの食生活	子どもの食生活の現状を調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
4.	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能Ⅰ(エネルギー・炭水化物・たんぱく質・脂質)	栄養素とそれを含む食品を調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
5.	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能Ⅱ(ビタミン・ミネラル)	栄養素とそれを含む食品を調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
6.	栄養に関する基本的知識Ⅰ(食事バランスガイド・6つの基礎食品・三食食品群)	食事のバランスを取る方法を調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
7.	栄養に関する基本的知識Ⅱ(食事摂取基準)	食事摂取基準について調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
8.	栄養に関する基本的知識Ⅲ(献立作成と調理の基本について)	栄養バランスの実践方法を考える(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
9.	衛生管理(食中毒の種類とその予防)、食品の表示制度	食中毒の過去の事例について調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
10.	献立作成Ⅰ(幼児期に必要な栄養素を考慮した献立作成)	幼児期に必要な栄養素について調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
11.	献立作成Ⅱ(幼児期に必要な栄養素を考慮した献立作成)	幼児期に必要な献立を考える(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
12.	献立作成Ⅲ(幼児期に必要な栄養素を考慮した献立発表)	作成した献立の発表準備を行う(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
13.	妊娠・授乳期の栄養と食生活	妊娠期の食事と胎児の関係についてまとめる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
14.	乳児期の栄養と食生活	乳児期の栄養について調べる(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
15.	前期授業のまとめ(復習)	教科書、配布資料の整理と復習しておく(予習1時間)授業の振り返りを行う(復習1時間)	
教科書	著者代表 森脇千夏「イラスト子どもの食と栄養」東京教学社		
参考書	日本人の食事摂取基準2020年度 「授乳・離乳の支援ガイド2019年」厚生労働省		
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(20%) 定期試験(60%)		
特記すべき事項	管理栄養士として30年の実務経験を有する。 各授業において予習60分、復習60分を必要とする。		
質問・相談等の受付	「九州大谷Online」のclassroomで質問相談等の受け付けを行う。		

科 目	子どもの食と栄養Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	彌永清子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	食育基本法を理解し、幼児期から老年期におけるライフステージに応じた食生活について学ぶ。また、食育の推進について実践力を養う。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、現状とその対応を理解する。 本授業は、幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する 3 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する 5 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している達成度を測るために、受講態度(積極的なグループ活動等)、授業内課題(プリント提出率)、定期試験での評価を行う。 なお、評価基準は次の通り。S(90~100点) A(80~89点) B(70~79点) C(60~69点) D(59点以下)		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ライフステージ別の栄養と食生活① 「授乳・離乳の支援ガイド」について	授乳・離乳期の食生活の問題点を調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
2.	ライフステージ別の栄養と食生活② 離乳期の栄養・離乳食のポイントについて	授乳・離乳期の介助のポイントを調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
3.	ライフステージ別の栄養と食生活③ 離乳食介助のポイントについて	離乳期の食形態を調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
4.	ライフステージ別の栄養と食生活④ 幼児期の栄養・栄養学的特徴について	幼児期の栄養の特徴についてまとめる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
5.	ライフステージ別の栄養と食生活⑤ 食育のための環境・食生活指導・食を通じた保護者への支援 第1~4までに学んだことをいかし、お便りを作成する	媒体作成の準備を行う(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
6.	ライフステージ別の栄養と食生活⑥ 学童期~高齢期の栄養について	学童~高齢者の栄養について調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
7.	食育の基本と食育支援① 保育所(幼稚園)・学校における食育の推進について	保育所給食の献立を確認する(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
8.	食育の基本と食育支援② 食育基本法の概要と食育推進基本計画の概要	保護者への栄養情報提供について調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
9.	幼児を対象にした食育の実践①グループワーク 幼児を対象にした食育の実践・指導案作成	幼児における食育の内容や方法を調べる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
10.	幼児を対象にした食育の実践②グループワーク 幼児を対象にした食育の実践を行う。媒体作成	食育を行うための媒体作成の準備を行う(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
11.	幼児を対象にした食育の実践③グループワーク 幼児を対象にした食育の実践を行う。媒体作成	食育を行うための媒体作成の準備を行う(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
12.	幼児を対象にした食育の実践④グループワーク 作成した紙芝居を使い発表する	媒体を使用した食育(発表)の準備をする(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
13.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	望ましい食生活の意義についてまとめる(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
14.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(障害のある子ども食物アレルギーへの対応)	食物アレルギーについて情報収集する(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
15.	後期授業のまとめ	教科書・配布資料の整理と復習を行う(予習1時間) 授業の振り返りを行う(復習1時間)	
教科書	著者代表 森脇千夏「イラスト子どもの食と栄養」 東京教学社		
参考書	「授乳・離乳の支援ガイド2019年」厚生労働省 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省2019年		
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(20%) 定期試験(60%) 復習問題の課題プリントは次回授業にてフィードバックする		
特記すべき事項	管理栄養士として30年の経験を有する 各授業において予習60分、復習60分を必要とする。		
質問・相談等の受付	「九州大谷Online」のclassroomで質問相談等の受け付けを行う。		

科目	保育原理	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育者となる上で、保育に関する最も基礎的な事項を学ぶと共に、保育の専門家としての自覚の深化を促す授業である。本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について理解する。新たな時代における保育の意味を問うことを通し、これからの保育の在り方や保育者としての課題、解決する能力を獲得する。		
学習成果の評価基準	保育の在り方や保育者としての課題を理解し解決する能力が身についているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上の回答ができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育の理念と概念	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
2.	子どもの最善の利益と保育	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
3.	子ども家庭福祉と保育および保育の社会的役割と責任	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
4.	法体系における保育の位置付けと関係法令	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
5.	子ども・子育て支援新制度と保育の実施体系	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
6.	保育所保育指針における保育の基本	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
7.	保育所保育に関する基本原則および保育における養護	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
8.	保育の目標	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
9.	保育の内容	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
10.	保育の環境・方法	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
11.	子どもの理解に基づく保育の過程とその循環	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
12.	保育の思想と歴史の変遷	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
13.	日本の保育の思想と歴史および現状	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
14.	諸外国の保育の思想と歴史および現状	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
15.	まとめ	2時間は、予習として教科書読む。2時間は、教科書と配付資料を振り返り課題に取り組む。	
教科書	『保育の学び—ファーストステップ—』瀧川・小栗・宮地（編）『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見（著編）『保育・幼稚園教育・子ども家庭福祉辞典』中坪他		
参考書	『保育の原理と方法』太田・小栗・宮地 編（2018） 保育出版会		
学習成果の評価方法	受講態度（20%）授業内課題（20%）定期試験（50%）授業内発表（10%）		
特記すべき事項	保育士（9年） 精神保健福祉士（1年） 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: mivadi@kvshuotani.online		

科 目	社会福祉	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本講義においては、生活者の視点に立った保障・福祉のサービス内容が理解できるように、支援を必要とする者に対する各種制度を中心に事例をあげて講義していく。 また、社会福祉の専門職として、必要な相談援助の理論から方法までを学修する。 本授業は幼児教育学科の学習成果 (1) に対応する。		
到達目標	社会福祉の制度と内容について、基本的事項を理解することができる。 相談援助の方法について、基本的な事項を理解することができる。 現在の福祉の課題と動向を理解することができる。 社会福祉における子どもの家庭支援の視点についてりかひすることができる。 社会福祉におえる利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している社会福祉の制度と内容の理解、相談援助の方法、福祉の課題と動向を理解することができる、子どもも家庭支援の視点、利用者の保護に関わる視点の達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	社会福祉の理念と歴史の変遷について / 生存権、ナショナルミニマム、ノーマライゼーション等の説明とその歴史的展開	予習) 福祉の目的について調べる こと (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
2.	子ども家庭支援と社会福祉について / 児童の健全育成とそのための家庭支援の必要性	予習) 健全育成の意味を調べる こと (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
3.	社会福祉の制度と法体系 / わが国の社会福祉に関する法律	予習) 福祉六法を構成する法律名 を調べる (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
4.	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 / 福祉事務所、福祉施設の種類と役割	予習) 国や自治体の役割を調べる こと (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
5.	社会福祉の専門職 / 社会福祉の資格と役割、児童福祉施設に配置される専門職の内容	予習) 専門職の種類調べる こと (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
6.	社会保障および関連制度の概要 / 社会保障の概要と生活保護、社会保険等	社会保険の制度名を調べる こと (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
7.	相談援助の理論 / ソーシャルワークの理論	予習) ソーシャルワークについて 調べる (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
8.	相談援助の意義と機能 / ソーシャルワークの原則と支援の方法	予習) ケースワーク⇒テキストを 読む (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
9.	相談援助の対象と過程 / 保育における子ども、保護者、地域支援	予習) 子育ての地域支援の具体策 を調べる (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
10.	相談援助の方法と技術 / 保育現場における支援活動のモデル	予習) ジェネラリストワークとは (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
11.	利用者の保護にかかわる仕組み / 権利擁護にかかわる制度 / 情報提供と第三者評価 / 人権擁護と苦情解決	予習) 人権保障をテキストで確認 (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
12.	少子高齢社会における子育て支援 / 少子化対策における保育支援の役割拡大と課題	予習) 少子化対策とは何かを調 べる (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
13.	共生社会の実現と障がい者施策 / 障がいのとらえ方とインクルージョンの理念、制度	予習) 障がいとは何かを考 えること (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
14.	地域福祉の推進 / 地域福祉の考え方と在宅支援の実践	予習) 居住地の地域福祉計画を確 認 (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
15.	諸外国の福祉の動向 / イギリス、ドイツ、アメリカ等の社会福祉制度	予習) 福祉国家の先進例を調 べる (120分) 復習) 授業内容を振り返る (120分)	
教科書	田畑洋一 他著「社会保障・社会福祉～生活を支えるしくみ」 学文社		
参考書	「国民の福祉と介護の動向」厚生統計協会編 必要に応じ、プリント資料を配布する。		
学習成果の 評価方法	授業内課題 (20%)、定期試験 (80%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。		
特記すべき 事項	福岡県社会福祉協議会勤務 (昭和60年～平成13年12月) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科目	子ども家庭福祉	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子ども家庭を取り巻く現状を整理し、子どもの発達を保障する具体的な支援施策を学習していく。なかでも、人権侵害や貧困による権利侵害等の多様な事象に触れ、その支援に対する方策について教示していく。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護について理解することができる。また、各種制度や実施体系等を理解し、子ども家庭福祉の現状と課題、さらには同行と展望について理解することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している内容の達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	子ども家庭福祉の理念と概念 児童の最善の利益と子ども家庭福祉の概念を考察する	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
2.	子ども家庭福祉の歴史の変遷 歴史的展開と現代社会の子ども家庭福祉	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
3.	子どもの人権擁護 子どもの人権擁護の歴史の変遷と児童の権利に関する条約並びに現代の擁護規定と課題	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
4.	子ども家庭福祉の制度と実施体制 関係法令と改正についてのポイントと実施体制の専門機関	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
5.	子ども家庭福祉の施設と専門職 児童福祉施設の措置と利用の施設の専門性	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
6.	少子化と地域子育て支援 子ども・子育て支援制度の概要と社会的な役割について	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
7.	母子保健と子どもの健全育成 わが国の母子保健の制度と健全育成の施策と課題	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
8.	多様なニーズへの対応 教育・保育施設、地域型保育事業と事業所等の支援	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
9.	子ども虐待、ドメスティックバイオレンスとその防止施策 子どもに与える影響と防止施策を学習する	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
10.	貧困家庭、外国籍の家庭支援 子どもの貧困の背景因子を学習する	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
11.	社会的養護 社会的養護の概念と施設について学習する	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
12.	障がいのある子どもへの対応 障がい児童支援の考え方	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
13.	少年非行等についての対応 少年非行の現状と支援のシステム	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
14.	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ワークライフバランスと支援の制度を学習	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
15.	子ども家庭福祉の動向と展望 地域における連携・協働とネットワークの必要性と諸外国の動向	予習)テキストを読み下調べを行う(120分) 復習)授業内容を振り返る(120分)	
教科書	児童育成協会監修「子ども家庭福祉(第2版)」中央法規		
参考書	必要に応じて、資料プリントを配布します。		
学習成果の評価方法	授業内課題(20%)、定期試験(80%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。		
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年~平成13年12月)		
質問・相談の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科目	障害児保育	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。個々の特性や心身の発達等に 応じた援助や配慮について事例を通して考え、保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。障害児その 他の 特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や連携・協働について理解し、現代の現状や課題について思考する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に 応じた援助や配慮について理解する。 3. 配慮を要する子どもの保育の計画作成や援助の具体的方法について理解する。 4. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。		
学習成果の 評価基準	授業内でノート記入やワークプリントを行う。振り返りの試験と合わせて、ノート作成や授業内課題の状況を 勘案し総合的に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	障害児保育を支える理念、「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷、障害児保育の基本	予習：自身の「障害」のイメージを振り返る(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
2.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ①肢体不自由児の理解と援助	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
3.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ②知的障害児の理解と援助	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
4.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ③視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
5.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ④発達障害児の理解と援助(ADHD・LD)	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
6.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ⑤発達障害児の理解と援助(PDD・ASD)	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
7.	障害児等の理解と保育における発達の援助 ⑥重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を要する子どもの理解と援助	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
8.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 ①指導計画及び個別の支援計画の作成 ②個々の発達を促す生活や遊びの環境	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
9.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 ③子ども同士の関わりと育ち合い ④障害児保育における子どもの健康と安全	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
10.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 ⑤職員間の連携・協働	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
11.	家庭との連携 ①保護者や家族に対する理解と支援 ②保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
12.	自治体・関係機関との連携 制度の理解と地域における自治体や関係機関(保育所、児童発達支援センター等)、小学校	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
13.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 ①保健・医療における現状と課題 ②福祉・教育における現状と課題	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
14.	障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解	予習：前回の復習をしておく(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
15.	支援の場の広がりとながり	予習：これまでの授業内容を振り返っておく(30分) 復習：ノートを見直す(30分)	
教科書	「障がい児保育の基本と課題」2016年(編者：井村圭壯、今井慶宗)		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 25%、振り返り試験 85% 授業内の指定された課題への取り組みは、次回授業内でフィードバックする。		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	保育心理	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。保育心理士資格の概要や専門性への理解を深めるとともに、保育心理士養成課程の学びの基礎を培う。授業の一部は、1日ワークショップ（5コマ対応）として開講する。 本授業は、幼児教育学科の学習成果（保育心理）に対応する。</p>		
到達目標	<p>1. 保育心理士の仕事について理解するとともに、保育心理士にふさわしい子ども観、態度を身につける 2. 保育心理士として子どもや保護者と関わるために必要な人間性やコミュニケーション技術の基礎を学ぶ 3. 子ども理解と観察の視点を学ぶ</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している3点の到達度を測るために、教科書発表に加えて、授業課題と1日WSレポート課題を実施し、評価する。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育心理士資格の背景と役割、日本の環境と子どもの現状、保育現場の新しい課題	予:受講動機を考える(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
2.	学びの動機と目的、保育心理士にふさわしい子ども観、態度	予:理想の保育者を考える(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
3.	感性のトレーニング1（からだで感じる）	予:生活場面での体験を考える(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
4.	感性のトレーニング2（気持ちとの距離を考える）	予:生活場面での気持ちとの距離を考える(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
5.	感性のトレーニング3（気持ちや感じを尊重する）	予:気持ちや感じに気づく(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
6.	0歳～5歳の発達1：教科書発表	予:発表資料の作成(6時間) 復:発表内容を復習する(2時間)	
7.	0歳～5歳の発達2：教科書発表	予:発表準備を行う(2時間) 復:発表内容を復習する(2時間)	
8.	0歳～5歳の発達3：教科書発表	予:発表準備を行う(2時間) 復:発表内容を復習する(2時間)	
9.	障害のある子ども、アセスメント、発達の特性に合わせた保育	予:障害のある人を思い浮かべる(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
10.	感覚統合	予:感覚遊びを思い出す(2時間) 復:授業内容を復習する(2時間)	
11.	一日ワークショップ (WS) コミュニケーション1（リラックスと表現）	予:緊張とリラックス状態の知覚(2時間) 復:振り返りとレポート作成(2時間)	
12.	一日ワークショップ (WS) コミュニケーション2（信頼とコミュニケーション）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する(3時間)	
13.	一日ワークショップ (WS) コミュニケーション3（想像と創造）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する(3時間)	
14.	一日ワークショップ (WS) コミュニケーション4（共感と協同）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する(3時間)	
15.	一日ワークショップ (WS) コミュニケーション5（イメージ表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する(3時間)	
教科書	山田真理子(1997):機微を見つめる一心の保育入門ー。エイデル研究所。		
参考書	牧野桂一・山田真理子(編)(2007):保育心理。樹心社。 山田真理子・原陽一郎(2007):抱っこしてもいいの？Q&A子どもに学ぶ子育てのヒントー。エイデル研究所。		
学習成果の評価方法	授業課題40%、教科書発表30%、1日WSレポート30%		
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 単位取得のためには、2023年4月15日（土）に実施されるWSに必ず参加すること。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科目	実習基礎演習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・西村幸一郎・永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	2年間の実習の基礎となる科目である。実習の基本的事項について学び、保育施設（保育所または幼稚園または認定こども園）での実習を行う。子どもたちの育ちの姿とそれに対する保育者の支援を学ぶ。実習後には、アフターミーティングを行い、気づきや疑問を共有して対話を通して学びを深める。幼稚園教諭免許、保育士資格の取得を希望し、1年次後期より始まる各種実習を履修する者は、本科目を必ず履修すること。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭の資格取得にあたり、乳幼児に直接に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できる。子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができる。また、自己の課題を客観的に見出し、今後の学びに繋げることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標にある、「乳幼児に直接に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できているか」「子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができるか」「今後の学びに繋がる自己の課題を見出すことが出来たか」を評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
	<p>授業は2コマ連続（毎週水曜日のⅠ・Ⅱ限）で開講され、この時間を利用して、保育施設での3～4時間程度の実習を計4回行う。実習は、大学が事前に依頼した近隣の協力園で行い、履修者の交通事情等に配慮して割り当てる。履修者を「A班」「B班」の2グループに分け、交互に隔週で実習を行う。授業では、以下の事項を行う。</p> <p>①ガイダンス 2年間の実習の概要 実習基礎演習の目的</p> <p>②実習準備 実習園の調整 実習用の写真撮影 書類作成（実習生カード・誓約書等） 必要な諸手続き（細菌検査・健康診断書・自家用車通勤等） 身だしなみの確認 名札の作成 訪問指導担当者との打合せ</p> <p>③実習園との打合せ 訪問または電話等による打合せ</p> <p>④実習 保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）での実習4回</p> <p>⑤実習記録 記録の意味 ワークシートによる記録</p> <p>⑥アフターミーティング 実習の振り返りと共有・対話</p> <p>⑦まとめ 実習・アフターミーティング全体の振り返り</p>	<p>①授業での説明は必ずメモを取り、配布資料と合わせて振り返りを行うこと。</p> <p>②実習に向けた諸準備（書類・身だしなみ他）については、期日厳守で不備の無いよう行うこと。</p> <p>③実習記録は、実習を行ったその日のうちにまとめ、翌朝提出すること。</p> <p>④アフターミーティングでの学びも記録としてまとめ、翌朝提出すること。</p> <p>⑤授業終了時には、4回の実習とアフターミーティングでの学び全体の振り返りを行い、レポートをまとめ、課題等を明確にすること。</p> <p>（予習・復習に毎週2時間、計30時間必要）</p>	
教科書	授業内で資料ならびにファイルを配布		
参考書	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』		
学習成果の評価方法	受講態度（30%）授業内課題（70%）		
特記すべき事項			
質問・相談の受付	授業時または研究室において授業担当者が相談を受け付ける。 Googleクラスルームまたは、メール（九州大谷Online）での質問や相談も受け付ける。		

科 目	実習基礎指導	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・永山 寛・西村幸一郎	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	基礎的な実習指導の後、実習を想定した観察の視点や記録の方法を学ぶ。1年後期より始まる各種実習の条件である「実習基礎演習」において補充的な学びが必要な学生を対象に集中講義で行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭の資格取得にあたり、乳幼児の理解と保育所・幼稚園での支援の概要を理解することができる。子どもや保育への基礎的理解を深めるとともに、実習の基本的姿勢を養うことができる。 また、自己の課題を客観的に見出し、今後の学びに繋げることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標にある、「乳幼児の理解と保育所・幼稚園での支援の概要を理解することができるか」「子どもや保育への基礎的理解を深めるとともに、実習の基本的姿勢を養うことができるか」「今後の学びに繋がる自己の課題を見いだせたか」を評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	“2年間の実習の概要を理解する 実習の目的について理解し心構えを養う”	実習にふさわしい身だしなみを整えておく 授業内容の振り返り(計120分)	
2.	実習準備の方法（書類作成、身だしなみや打合せの目的）	今後の実習候補園について考え、園の特色等について調べる 授業内容の振り返り(計120分)	
3.	実習記録の取り方①	状況や行動を記録する練習。 授業内容の振り返り(計120分)	
4.	実習記録の取り方②	観察対象の気持ちを考え分析して記録する練習。 授業内容の振り返り(計120分)	
5.	保育環境の理解①	保育環境についての復習とまとめ。 授業内容の振り返り(計120分)	
6.	保育環境の理解②	環境から子どもの行動を予測する練習。 授業内容の振り返り(計120分)	
7.	実習記録の整理の方法	実習記録のとり方についての復習。 授業内容の振り返り(計120分)	
8.	まとめ	実習に向けて必要な準備、心構え、この科目での学びについてレポートにまとめる。(計120分)	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書	『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説書』		
学習成果の評価方法	“受講態度（30%） 授業内課題（70%）		
特記すべき事項	授業時間外学習として、予習60分と復習60分を必要とする。内容詳細については、履修者に個別に指示する。		
質問・相談の受付	授業時または研究室において授業担当者が相談を受け付ける。 Googleクラスルームまたは、メール（九州大谷Online）での質問や相談も受け付ける。		

科目	保育実習指導 I (保育所) 1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子、西村幸一郎	授業形態 単位数	演習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。 保育実習指導 I (保育所) では、保育実習 I (保育所) に必要な実習指導を行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果 (4) に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 		
学習成果の評価基準	<p><実習前>・到達目標に明示している、保育実習 I (保育所) にかかる1~4について理解度を測るために確認テスト・課題や口頭での確認等を実施し評価する (30) ・保育実習 I (保育所) にかかる必要な手続きを進められる (50) <実習後>・到達目標に明示している5について、課題やグループワーク等を実施し評価する (20)</p>		
	授業計画 (授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	オリエンテーション	予習：シラバスを読んでおく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
2.	保育実習の意義 (2) 実習の目的	予習：実習の目的を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
3.	保育実習の意義 (3) 実習の概要、実習先との手続きについて	予習：基礎実習の学習内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
4.	実習の内容と課題の明確化 (2) 実習の内容	予習：実習の課題を明確にしておく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
5.	実習の内容と課題の明確化 (3) 実習の課題、実習目標の作成について	予習：保育所の役割について指針を読む (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
6.	実習に際しての留意事項 (2) 子どもの人権と最善の利益の考慮	予習：児童の権利に関する条約を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
7.	実習に際しての留意事項 (3) プライバシーの保護と守秘義務	予習：保育士の守秘義務について調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
8.	実習に際しての留意事項 (3) 実習生としての心構え、事前打ち合わせについて	予習：基礎実習の内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
9.	実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践	予習：保育計画について調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
10.	実習の計画と記録 (2) 実習における計画と実践	予習：デイリープログラムについて調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
11.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	予習：記録の種類を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
12.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	予習：基礎実習でのエピソードを整理する (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
13.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価	予習：実習記録を整理しておく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
14.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	予習：自己の課題を明確にする (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
15.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	予習：これまでの内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
教科書	大豆生田啓友ら編著『これからの時代の保育者養成実習ガイド』中央法規2020		
参考書	無藤隆・汐見稔幸編『イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBook』学陽書房2017		
学習成果の評価方法	受講態度・実習に関する手続き (50%)、事前学習 (30%)、事後学習 (20%)		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I (保育所) と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。 ・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること。 		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科目	保育実習指導 I (保育所) 1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	演習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習指導 I (保育所) では、保育実習 I (保育所) に必要な実習指導を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果 (4) に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 		
学習成果の評価基準	<p><実習前>・到達目標に明示している、保育実習 I (保育所) にかかる1~4について理解度を測るために確認テスト・課題や口頭での確認等を実施し評価する (30) ・保育実習 I (保育所) にかかる必要な手続きを進められる (50)</p> <p><実習後>・到達目標に明示している5について、課題やグループワーク等を実施し評価する (20)</p>		
	授業計画 (授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	予習：シラバスを読んでおく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
2.	保育実習の意義 (2) 実習の目的	予習：実習の目的を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
3.	保育実習の意義 (3) 実習の概要、実習先との手続きについて	予習：基礎実習の学習内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
4.	実習の内容と課題の明確化 (2) 実習の内容	予習：実習の課題を明確にしておく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
5.	実習の内容と課題の明確化 (3) 実習の課題、実習目標の作成について	予習：保育所の役割について指針を読む (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
6.	実習に際しての留意事項 (2) 子どもの人権と最善の利益の考慮	予習：児童の権利に関する条約を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
7.	実習に際しての留意事項 (3) プライバシーの保護と守秘義務	予習：保育士の守秘義務について調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
8.	実習に際しての留意事項 (3) 実習生としての心構え、事前打ち合わせについて	予習：基礎実習の内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
9.	実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践	予習：保育計画について調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
10.	実習の計画と記録 (2) 実習における計画と実践	予習：デイリープログラムについて調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
11.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	予習：記録の種類を調べる (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
12.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	予習：基礎実習でのエピソードを整理する (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
13.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価	予習：実習記録を整理しておく (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
14.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	予習：自己の課題を明確にする (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
15.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	予習：これまでの内容を振り返る (30分) 復習：本時を振り返る (30分)	
教科書	大豆生田啓友ら編著『これからの時代の保育者養成実習ガイド』中央法規2020		
参考書	無藤隆・汐見裕幸編『イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBook』学陽書房2017		
学習成果の評価方法	受講態度・実習に関する手続き (50%)、事前学習 (30%)、事後学習 (20%)		
特記すべき事項	・保育実習 I (保育所) と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。 ・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること。		
質問・相談の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科目	保育実習指導Ⅰ（施設）1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	西村幸一郎・河村陽子	授業形態 単位数	演習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習指導Ⅰ（施設）では、保育実習Ⅰ（施設）に必要な実習指導を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（4）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 		
学習成果の評価基準	<p>〈実習前〉・保育実習Ⅰ（施設）にかかる必要な手続きが行えることを評価する</p> <p>・実習の目標について具体的な課題に気づき、取り組みの方法を自身で計画したかを評価する</p> <p>〈実習後〉・自身の目標の達成状況、実習での取り組みについて自己評価をし、自身の課題への学びを評価する</p> <p>・実習の報告を行うことで学びを共有し、他の施設の概要への気づきを評価する。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育実習の意義・目的と概要、実習指導授業の進め方	予習：疑問点があれば質問を考慮しておく（30分） 復習：振り返り（30分）	
2.	実習施設の理解：発表準備	予習：教科書の該当する部分を読んでおく（30分） 復習：振り返り（30分）	
3.	実習施設の理解：発表	予習：発表準備を行う（30分） 復習：振り返り（30分）	
4.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	予習：自分の実習予定を確認する（30分） 復習：振り返り（30分）	
5.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	予習：基本情報を覚えてくる（30分） 復習：振り返り（30分）	
6.	実習に際しての留意事項（倫理綱領、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、観察の視点、記録および評価）	予習：教科書の該当する部分を読んでおく（30分） 復習：振り返り（30分）	
7.	実習目標の作成1	予習：実習目標を立てる（30分） 復習：振り返り（30分）	
8.	介護の体験	学んだことを復習しておく（60分）	
9.	実習目標の作成2	予習：実習目標を完成させる（30分） 復習：振り返り（30分）	
10.	直前指導、実習生としての心構え	予習：実習準備の総まとめを行う（30分） 復習：振り返り（30分）	
11.	児童福祉施設等実習の事後指導1 実習の統括と自己評価	予習：実習日誌等で自身の実習の振り返りをしておく（30分） 復習：振り返り（30分）	
12.	児童福祉施設等実習の事後指導2 実習の統括と自己評価、課題の明確化	予習：報告会のレポートを作成する（30分） 復習：振り返り（30分）	
13.	児童福祉施設等実習の事後指導3 実習の統括と自己評価、課題の明確化	予習：報告会のレポートを作成する（30分） 復習：振り返り（30分）	
14.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	予習：報告会の準備（30分） 復習：振り返り（30分）	
15.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	報告会の振り返り（30分） 実習の学びの振り返り（30分）	
教科書	「保育福祉小六法2021年版」保育福祉小六法編集委員会（編）：2021年、みらい 「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友、他（編著）：2020年、中央法規出版		
参考書	岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲ほか（編）（2013）「保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック、みらい」		
学習成果の評価方法	受講態度・手続き 40%、事前学習 15%、事後学習 45% 手続き等、随時必要に応じて実施できているかの確認を行い、フィードバックします。		
特記すべき事項	・保育実習Ⅰ（施設）と合わせて単位認定を行うため、合わせて履修すること ・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）		